

第3編 — 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項 —

第3編では、第2編に示した自然的・社会的特性や目標等に基づき、海岸の保全のために実施する海岸保全施設の新設又は改良に関する事項及び維持又は修繕に関する事項について示す。

3-1 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項

3-1-1 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域

本計画では、原則として一連の海岸保全施設を新設・改良しようとする区域を定める。基本的には、現在、海岸保全区域に指定されている海岸を対象とするが、その他の海岸であっても施設の新設・改良を行うことが必要と認められるときは、海岸保全区域の指定を前提に整備の対象とする。

対策を講じる海岸は、現在、越波・飛沫等による災害や、砂浜全体の侵食が進行している海岸、あるいは以前から対策を継続している海岸とする。

3-1-2 海岸保全施設の種類、規模及び配置

海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域内で、整備しようとする海岸保全施設の配置を図 3-3-1（基本計画総括図）に、種類及び規模を表 3-3-2（海岸保全施設の整備に関する事項一覧表）に示す。

3-1-3 海岸の防護の考え方

(1) 高潮に対する防護

高潮からの防護を対象とする海岸にあつては、“朔望平均満潮位”に“想定される最大の偏差”を加えた計画高潮位に來襲波浪による打ち上げ高を加えたものに対して防護する。

(2) 津波に対する防護

津波からの防護を対象とする海岸にあつては、東北地方太平洋沖地震を契機として、国から示された「設計津波の水位の設定方法等について」（平成 23 年 7 月 8 日）の考えにより、朔望平均満潮位を加え、数十年から百数十年に一度程度発生する津波によるせり上がりを考慮した水位に対して防護する。併せて、地域の状況や防災効果を考慮してハード、ソフト面を組み合わせ防護する。

(3) 侵食に対する防護

侵食が進行している海岸にあつては、現状の砂浜を保全することを基本として、最低限の幅と適度な勾配を持つ砂浜を目標とし、必要に応じて優れた消波機能を有する砂浜全体の回復を図る。その際、沿岸漂砂の連続性を勘案し、侵食が進んでいる地域だけでなく、流砂系・漂砂系の考えに基づき、砂の移動する範囲全体において、土砂収支の状況を踏まえた広域的な視点に立った対応を適切に行う。

具体的には、平成 23 年 3 月に「相模湾沿岸海岸侵食対策計画」を策定し、河川から供給された土砂が海岸に沿って移動し形成された砂浜の範囲を「漂砂系」、岬と岬に区切られたポケットのような海岸地形の中で砂の移動が収まり砂浜が形成されている「ポケットビーチ」に大別しそれぞれの特性をふまえ、養浜を主体とした海岸保全を進め、P D C A サイクルにより計画、実行、検証、再検討を行い、砂浜の変化に応じた適切な管理を行う。

3-1-4 受益の地域

海岸保全施設の新設又は改良によって、津波、高潮、越波、海岸侵食による災害から防護される地域である受益地域については、図 3-3-1（基本計画総括図）にその範囲を示す。また、受益地域における現況の土地利用の状況については、表 3-3-2（海岸保全施設の整備に関する事項一覧表）に示す。

3-2 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項

3-2-1 海岸保全施設の存する区域

海岸保全施設は、背後地を津波、高潮等の災害から防護する機能を効率的・効果的かつ長期的に確保することが重要であり、適切な維持又は修繕を行うことが必要である。維持又は修繕の対象となる海岸保全施設の存する区域を、図 3-3-1（基本計画総括図）に示す。

3-2-2 海岸保全施設の種類、規模及び配置

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設の種類及び規模を表 3-3-2（海岸保全施設の整備に関する事項一覧表）に、施設の配置を図 3-3-1（基本計画総括図）に示す。

3-2-3 維持又は修繕の方法

海岸保全施設の定期的な巡視、点検を行い、施設の損傷・劣化、その他の変状の把握に努め、変状が認められたときには、適切な措置を講じ、施設の機能維持を図る。

また、海岸保全施設は、今後、急速に老朽化が進行することが見込まれていることから、長寿命化計画を策定するなど、施設の維持又は修繕を計画的に実施し、施設を良好な状態に保つよう努める。

海岸保全施設の維持又は修繕の実施にあたっては、以下の点に留意する必要がある。

- ① 海岸保全施設においては、変状による性能の低下が、直接防護機能の低下につながりやすい。
- ② 長い延長の一箇所でも破堤すると他が健全でも大きな被害をもたらす可能性がある。また、施設の天端高が不足すると、施設本体は破堤しなかったとしても、背後地に大きな被害をもたらすことになる。
- ③ 海岸保全施設の変状は、主に地震、津波、高潮、高波浪の発生時に進展するとともに、海岸の地形や構造物の配置等によって、劣化や被災による変状が起こりやすい箇所がある。
- ④ 構造物の破壊に至る変状連鎖の第一段階が堤体材料の吸出しであり、これにより堤体内の空洞化が進行するケースが多いが、基礎部分が海面下に没していることが多く変状を発見しにくい。
- ⑤ 堤体材料の吸出しや堤体の変状に対する予防保全として、堤防前面に十分な幅の砂浜が確保されている状態を維持することが重要であるため、堤防だけでなく砂浜の変化に対する点検もあわせて実施していく必要がある。

なお、海岸保全施設ごとの維持又は修繕の方法を表 3-3-2（海岸保全施設の整備に関する事項一覧表）に示す。

3-2-4 受益の地域

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設によって、津波、高潮、越波、海岸侵食による災害から防護される地域である受益地域については、図 3-3-1（基本計画総括図）にその範囲を示す。また、受益地域における現況の土地利用の状況については、表 3-3-2（海岸保全施設の整備に関する事項一覧表）に示す。

3-3 ブロック毎の海岸保全施設の整備に関する事項

(1) 防護方式

海岸保全施設の防護方式は、線的防護方式、面的防護方式に大別される。それぞれの主な施設には、以下のようなものがある。

- ・線的防護方式 : 堤防・護岸（直立、傾斜、緩傾斜）、消波堤、防潮水門等
- ・面的防護方式 : 突堤、人工リーフ、離岸堤、養浜等

表 3-3-1 主な海岸保全施設

種 類	施設の整備目的	特 徴	実施事例		
線的な防護方式の主な対策工法	護 岸 (直立式)	<ul style="list-style-type: none"> ・越波の防止。 ・高潮、津波による背後地への海水侵入防止。 ・陸域の侵食防止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的费用が安い。 ・侵食がなければ砂浜は広い。 ・コンクリートの壁が目立つ。 ・水際に近づくのが困難。 ・護岸より海側は効果なし。 		
	護 岸 (緩傾斜式)	<ul style="list-style-type: none"> ・越波の防止。 ・高潮、津波による背後地への海水侵入防止。 ・陸域の侵食防止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観への影響が少ない。 ・海岸が利用しやすい。 ・直立式より費用がかかる。 ・砂浜が狭くなる。 ・護岸より海側は効果なし。 		
	消波工 (消波堤)	<ul style="list-style-type: none"> ・越波の防止、低減。 ・崖（浜崖）の侵食防止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・越波低減効果は大きい。 ・崖（浜崖）侵食防止に有効。 ・景観への影響が大きい。 ・砂浜が狭くなる。 ・消波工より海側は効果なし。 		
	突 堤	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜の侵食防止。 ・沿岸漂砂（海岸線に沿った砂の動き）の制御。 ・突堤の漂砂上手側の汀線維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用はかかるが、自然石を用いた事例もある。 ・漂砂の上手側は堆積、下手側は侵食。 ・1基造ると、下手に次々造る必要に迫られることがある。 		
	離岸堤	<ul style="list-style-type: none"> ・消波（波を小さくする）。 ・離岸堤背後の堆砂促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工リーフと比較すると施設占有面積が小さく安価で、保全効果も分かりやすい。 ・開口部は侵食傾向となる。 ・景観や船舶航行への影響は大きい。 		
	人工リーフ (潜堤)	<ul style="list-style-type: none"> ・消波（波を小さくする）。 ・人工リーフ背後の堆砂促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観への影響は小さいものの、船舶航行への影響は大きい。 ・開口部は侵食傾向となる。 ・離岸堤と比較して施設占有面積が大きく高価で、環境への影響が大きい場合がある。 		
	ヘッドランド (人工岬工法)	<ul style="list-style-type: none"> ・侵食、越波の防止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離岸堤群や人工リーフ群よりも少ない構造物で同等の範囲を守る場合がある。 ・構造物の影響のみではなく、美しい弓状海岸線の改変という景観上の問題点もある。 		
面的な防護方式の主な対策工法	人工海浜 (養浜)	<ul style="list-style-type: none"> ・越波、侵食等各種災害からの防護。 ・飛砂、飛沫の低減、抑止。 ・景観、利用の向上。 ・等々を含む総合的対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背後地の利用計画と合わせて実施されることが多い。 ・陸域には東屋、トイレ、シャワー等の便利施設が整備されることもある。 ・養浜砂の流出を防止するため、他の工法と併用されることが多い。 ・養浜材の粒径を考慮することで安定した海浜を形成できる。 		
	岩盤型施設(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸漂砂（海岸線に沿った砂の動き）の制御。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常時と高波浪時で方向の異なる沿岸流に対して、砂礫流出の防止を図る。 		
	沿岸漂砂礫流失抑制施設	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂流出の抑制。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海底勾配が急峻な海底谷が迫る海岸において、供給土砂の流出抑制を図る。 		
	その他	植栽・植林 (防潮林等)	<ul style="list-style-type: none"> ・飛砂の低減、抑止。 ・飛沫の低減。 ・景観の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は、松ばかりでなく、砂浜性植物による飛砂防止効果が期待されている。 	

(2) 留意事項

海岸保全施設を整備しようとする区域毎に海岸保全施設の種類、規模、配置等について定める。海岸保全施設の種類、規模、配置等は、各地区などの実態に応じて防護、環境及び利用の観点から施設計画を立てる。海岸保全施設の新設・改良にあたっては、工法選定を防護、環境及び利用面から合目的な理由を位置づける。また、施設計画を策定するにあたっては、自然条件や海岸環境や利用に配慮した、適切な施設の整備とソフト的な対策を計画するが、このことについては地元市町、漁業関係者、関係住民、海岸利用者等の意見を聴くことが必要である。

老朽化護岸の場合は、その改築も施設計画の一部である。海岸保全施設の効用を果たしている道路擁壁等は、各施設管理者と調整のうえ、既設擁壁等を撤去して改築する案、既設擁壁の前面に新たに海岸保全施設を設置する案などを検討する。

また、海岸保全施設の防護機能を長期にわたり確保するためには、予防保全の考え方を導入し、適切な維持管理を行うことが必要である。

なお、海岸保全施設がその防護水準に達していない箇所は、警戒・避難などのソフト対策で対処する。さらに、防護水準を超える外力に対しては、地域防災計画に従って関係行政機関や地域住民と連携を図りながら警戒・避難などのソフト対策で被害の軽減を図るものとする。

また、防護水準を超える最大クラスの津波が来襲し、海岸堤防等の天端を越流した場合でも、海岸堤防等が破堤、倒壊しにくく、また、海岸堤防等が破壊、倒壊した場合でも施設の効果が粘り強く発揮されるよう減災効果を目指した構造上の工夫に努める。

海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項を示す。

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（1）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果	
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面			
横須賀	①剣崎～ 毘沙門	1	間口漁港	松輪	水産庁	三浦市	805	人工海岸 自然海岸	津波	防潮堤			350.5	4.5	-	-	道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・一定の防護水準を確保する。	一定の防護水準を確保するために、施設の整備を行う。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。江奈湾奥の干潟の貴重な生物環境の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸沿いの散策道の維持・補修を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸及び防潮堤については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・門扉については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。	越波の防止によって背後地の生活環境が向上する。
										護岸			363	4.5	-	-							
										消波工			146	-	-	-							
										門扉			11(基)	4.5	-	-							
	2	毘沙門漁港	毘沙門(現在、海岸保全区域の指定は無い)	水産庁	三浦市	700(現在、海岸保全区域の指定は無い)	人工海岸 自然海岸	津波	砂浜			-	-	-	-	道路公園 田畑 住宅地	・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸沿いの散策道の維持・補修を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工についてはブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じて、ブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
									護岸	改良	250	2.7	250	4.7									
								消波工	新設	-	-	250	未定										
②三崎～ 長者ヶ崎	3	三崎漁港	宮川	水産庁	神奈川県	1,709	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			32	4.5	-	-	山林 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。風致地区と首都圏近郊緑地保全区域に指定されている現在の環境を維持する。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
									堤防			26.5	6	-	-								
	4	三崎漁港	晴海	水産庁	神奈川県	700	自然海岸	津波	施設無			-	-	-	-	山林 工業用地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	-	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（2）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果	
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面			
横須賀	②三崎～長者ヶ崎	5	三崎漁港	城ヶ島	水産庁	神奈川県	3,130	人工海岸 自然海岸	高潮	護岸			103.5	3.5	-	-	住宅地 工業用地	・飛砂から背後地を防護するとともに、沿岸漂砂による侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。 ・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・研究の拠点の形成など海の総合的な活用を図る。	飛砂を防止して背後地を防護するとともに、沿岸漂砂による侵食を防止して現況汀線を維持する。高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	白秋碑を中心として造成された人工海浜の整備と保全に努める。城ヶ島の東西端に広がる磯場、藻場の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。沿岸沿いの散策道の維持・補修を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	越波、飛砂の防止によって背後地の生活、利用環境が向上する。侵食の防止によって砂浜の保全が図られる。
		6	三崎漁港	三崎 (現在、海岸保全区域の指定は無い)	水産庁	神奈川県	2320 (現在、海岸保全区域の指定は無い)	人工海岸	高潮	護岸			不明	不明	-	-	住宅地 工業用地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	入り組んだ湾内の底質や水質の保全に努める。生態系や自然環境に配慮した水辺空間の創出を図る。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。プレジャーボートと漁船等の航行等の調整を図る。	・護岸については、機能保全計画を策定し、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
		7	三崎漁港	白石	水産庁	神奈川県	1,100	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			57.1	6.5	-	-	住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
		8	三崎漁港	海外	水産庁	神奈川県	1,580	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			82.95	4	-	-	住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
		9	三崎漁港	諸磯	水産庁	神奈川県	4,200	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			776.55	1.2~3.1	-	-	住宅地 林地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。入り組んだ湾内の底質水質の悪化や湾奥での土砂の堆積の予防に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（3）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果		
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面				
横須賀	②三崎～長者ヶ崎	10	三崎漁港	小網代	水産庁	神奈川県	6,070	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			248.35	3	-	-	住宅地 林地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。 ・極力自然環境を損ねることのない工法を選択するように取り組む。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	磯場、藻場の保全、保護に努める。入り組んだ湾内の底質水質の悪化や湾奥での土砂の堆積の予防に努める。小網代の干潟のアカテガニ、油壺のクサフグなど貴重な生物環境の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
		11	初声漁港	三戸	水産庁	三浦市	三浦市	555	人工海岸 自然海岸	津波 侵食	護岸			-	-	-	-	道路 住宅地	・沿岸漂砂による侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・一定の防護水準を確保する。	沿岸漂砂による侵食を防止して現況汀線の維持を図る。一定の防護水準を確保するために、施設の整備を行う。	沖合の磯場、藻場、干潟の保全、保護に努める。貴重な植物群落の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸沿いの散策の維持・補修を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤については、波浪によるブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じて、ブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	侵食の防止によって砂浜および背後地の保全が図られる。
											突堤	新設	-	-	90m (1基)	6								
		12	三浦(河)	初声	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	840	自然海岸	津波 侵食	砂浜			-	-	-	-	道路 住宅地	・沿岸漂砂による侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・相模湾沿岸海岸侵食対策計画に基づき汀線の維持に努める。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「三戸のお精霊流し」などの伝統的な催事に配慮した適切な海岸保全に努める。	・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	侵食対策によって砂浜および背後地の保全が図られる。	
		13	三浦(河)	長浜	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	960	人工海岸 自然海岸	津波	護岸	改良	325	2.91～ 4.14	400	未定	道路 住宅地 公共施設 駐車場	・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。県YMCA三浦ふれあいの村と連携して「自然体験学習の場」としての整備を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールを周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。		
										砂浜		-	-	-	-									
										消波工	新設	-	-	400	未定									
		14	長井漁港	荒井	水産庁	横須賀市	658	人工海岸 自然海岸	津波 高潮	消波工	新設	-	-	100	検討中	漁港施設 用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	「荒崎・潮騒の道」へと続く海岸景観、沖合の藻場・磯場の保全・保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールを周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。		
										護岸	改良	150	1.8	150	検討中									

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（4）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
横須賀	②三崎～長者ヶ崎	15	長井漁港	漆山	水産庁	横須賀市	844	人工海岸 自然海岸	津波 高潮	護岸	改良	70	1.9	70	検討中	漁港施設 用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	「荒崎・潮騒の道」へと続く海岸景観、沖合の藻場・磯場の保全・保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰り呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
										護岸	新設	-	-	455	検討中							
		16	長井漁港	新宿(現在、海岸保全区域はない)	水産庁	横須賀市	573 (現在、海岸保全区域はない)	人工海岸	津波	護岸	改良	40	2.6	40	検討中	漁港施設 用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	「荒崎・潮騒の道」へと続く海岸景観、沖合の藻場・磯場の保全・保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰り呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
										護岸	新設	-	-	206	検討中							
		17	長井漁港	本港	水産庁	横須賀市	784	人工海岸 自然海岸	津波	護岸	改良	721	2.9	721	検討中	漁港施設 用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	「荒崎・潮騒の道」へと続く海岸景観、沖合の藻場・磯場の保全・保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰り呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
										護岸	新設	-	-	195	検討中							
	18	横須賀(河)	長井	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	1,398	人工海岸	津波	護岸		1284	2.92~5	-	-	道路 住宅地	・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	沖合の藻場や天然磯場など豊かな小田和湾の生物環境の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰り呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。多くの人が海辺と親しくすることができるよう安全で快適なアクセスづくりを推進する。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
									堤防		不明	不明	-	-								

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（5）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果		
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面				
横須賀	②三崎～長者ヶ崎	19	長井漁港	井尻	水産庁	横須賀市	263	人工海岸	津波	護岸	改良		330	2.9	330	検討中	漁港施設用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	「荒崎・潮騒の道」へと続く海岸景観、沖合の藻場・磯場の保全・保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック横須賀『長井』」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。		
		20	佐島漁港	谷戸芝	水産庁	横須賀市	1,227	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			120	3.7			漁港施設用地 山林 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。砂浜の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
		21	佐島漁港	本港	水産庁	横須賀市	2,396	人工海岸 自然海岸	津波	護岸	新設			-	-	280	検討中	漁港施設用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。天神島周辺の貴重な植物の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。天神島から笠島にかけての横須賀市臨海自然教育園を自然体験学習の場として利用する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
		22	佐島漁港	芦名	水産庁	横須賀市	1,040	人工海岸 自然海岸	津波 侵食	消波工	新設			-	-	120	検討中	漁港施設用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、総合的に対策を計画し、一定の防護水準の確保を図る。	越波が生じている道路沿いの箇所については、海岸景観に配慮した護岸の嵩上げ等によって越波を防止する。越波が生じている漁港施設背後については、既設護岸の嵩上げのほか沖合施設や養浜等によって越波を防止する。一定の防護水準を確保するために、施設の整備を行う。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。芦名川河口の砂浜の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。砂浜の回復と保全により海岸利用者のアクセスの改良と利用環境の向上が図られる。
		23	秋谷漁港	秋谷	水産庁	横須賀市	1,069	人工海岸 自然海岸	津波	護岸				78	2.1~2.9	-	-	漁港施設用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・一定の防護水準の確保を図る。	一定の防護水準を維持するために、施設の異常箇所の早期発見のための点検を継続的に行う。	沖合の藻場・磯場や秋谷海岸の砂浜の保全、保護に努める。隣接する立石岩の景観資源の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	一定の防護水準が維持される。
		24	横須賀(河)	秋谷(秋谷・海老田)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	1,001	自然海岸	津波 侵食	消波工	新設			333	2.4~4.3	-	-	道路 住宅地 公園 駐車場	・沿岸漂砂による侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図るものとする。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海岸景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	優れた立石の景観資源や、自然体験学習の場ともなっている藻場や天然磯場などの豊かな生物環境の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。自然環境の保全、保護に配慮した海水浴場の適切な利用に努める。	・消波工については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を実施し、必要に応じて、ブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	越波、飛沫の防止によって背後地の生活・利用環境が向上する。侵食の防止によって砂浜および背後地の保全が図られる。

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（6）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果	
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面			
②三崎～長者ヶ崎		25	久留和漁港	久留和	水産庁	横須賀市	656	人工海岸 自然海岸	津波	砂浜			-	-	-	-	漁港施設 用地 道路 住宅地	・都市型漁業の振興、海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・一定の防護水準の確保を図る。	一定の防護水準を維持するために、施設の異常箇所等の早期発見のための点検を継続的に行う。	沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。砂浜の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰り及び秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・離岸堤については、堤体前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	一定の防護水準が維持される。
		26	横須賀(河)	秋谷(大崩浜田)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	1,333	自然海岸	津波 侵食	護岸	消波堤	砂浜	不明	不明	-	-	道路 住宅地 駐車場	・海岸の侵食を防止し、砂浜の消波の機能の確保に努める。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・粗粒材を使用した計画的な養浜により回復した浜の維持管理を行い消波機能の確保を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	優れた景観資源、沖合の藻場や天然磯場などの豊かな生物環境の保全、保護を図る。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波堤については、堤体前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜の回復により砂浜の消波の機能が確保される。
横須賀		27	葉山(河)	一色下山口	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	2,595	自然海岸	津波 侵食	護岸	消波堤	砂浜	47	不明	-	-	道路 住宅地 公園 皇室用財産	・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	藻場や天然磯場などの生物環境や天然記念物など貴重な生物環境の保全、保護に努める。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。「海・浜のルールブック」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波堤及び突堤については、堤体前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	一定の防護水準が確保されるように施設の整備に取り組む必要がある。砂浜の変動状況をモニタリングしながら対処する。
		28	真名瀬漁港	葉山	水産庁	葉山町	540	人工海岸 自然海岸	津波	護岸			277	4.6	-	-	道路 住宅地	・高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため対策を計画する。 ・一定の防護水準を維持する。	高潮、津波時の越波、浸水を防止し海岸背後地を防護する。一定の防護水準を維持するために、施設の異常箇所等の早期発見のための点検を継続的に行う。	優れた景観、沖合の藻場や天然磯場などの豊かな生物環境の保全、保護を図る。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸ごみの持ち帰り及び秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	越波の防止によって海岸背後地の生活環境が向上する。
		29	葉山(河)	堀内	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	1,240	自然海岸	津波 侵食	離岸堤	257(4基)	2~3.8	-	-			道路 住宅地	・北部地区で発生している高潮時の飛沫等の被害から背後地を防護するため、対策を検討する。 ・現状の砂浜を保全する。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・一定の防護水準を確保する。高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、対策を計画する。	養浜によって現況汀線の維持を図る。一定の防護水準を確保するために、施設の整備を行う。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	優れた景観資源、沖合の藻場や天然磯場などの豊かな生物環境の保全、保護を図る。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。自然環境の保全、保護に配慮した海水浴場の適切な利用に努める。プレジャーボートの放置対策を推進する。「海・浜のルールブック」が施行されている海岸であり、水上オートバイ等の海洋レジャー目的の海岸利用者に対してルールの周知を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・離岸堤、突堤及び消波工については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上する。
										砂浜	-	-	-	-									
突堤	126m(3基)									1.9~2.5	-	-											
護岸	44									1.9	-	-											
消波工	40	1.5	-	-																			

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（7）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
横須賀	③葉山・逗子	30	葉山港(港)	葉山	国土交通省 港湾局	神奈川県	257	人工海岸 自然海岸	津波 侵食	護岸		不明	不明	-	-	道路 住宅地	・海岸の侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	・養浜によって現況汀線の維持を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	優れた景観資源、沖合の藻場や天然磯場などの豊かな生物環境の保全、保護を図る。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。自然環境の保全、保護に配慮した海水浴場の適切な利用に努める。プレジャーボートの放置対策を推進する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	侵食の防止によって砂浜および背後地の保全が図られる。越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上する。
		31	逗子(河)	逗子(新宿桜山)	国土交通省 水管理・国土保全局	神奈川県	1,901	自然海岸	津波 侵食	護岸	改良	448	4.8	-	-	道路 住宅地 商業地 駐車場	・海岸北側の侵食を防止し砂浜の保全に努める。 ・海洋レクリエーション拠点の形成、海洋教育・海洋研究の拠点の形成など、海の総合的な活用を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	・養浜によって現況汀線の維持を図る。 ・高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	優れた景観資源、沖合の藻場や天然磯場などの豊かな生物環境を保全、保護。	海岸ごみの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。自然環境の保全、保護に配慮した海水浴場の適切な利用に努める。プレジャーボートの放置対策を推進する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤及び消波工については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	海岸北側の狭小な海岸は利用の妨げとなっている。汀線変化の解析結果から海岸線は近年侵食傾向にあることがわかっており対策が求められる。一定の防護水準が確保されるように施設の整備に取り組む必要がある。
		32	小坪漁港	小坪	水産庁	逗子市	神奈川県	1,051	人工海岸 自然海岸	津波 侵食(飛砂)	消波堤		573	不明	-	-	道路 住宅地 山林	・都市型漁業を振興するとともに、海洋レクリエーション拠点としての共存を図る。 ・一定の防護水準を確保する。 ・環境保全に配慮しながら観光資源としての利用を促進する。	一定の防護水準を確保するために、施設の整備を行う。	沖合の磯場、藻場の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持や海洋レクリエーションとの共存が図られるよう配慮する。海岸ごみの持ち帰り呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマナー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波堤については、堤体前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。
藤沢	④鎌倉	33	鎌倉(河)	鎌倉(由比ヶ浜)	国土交通省 水管理・国土保全局	神奈川県	3,331	自然海岸	津波 侵食	護岸		3309	4.0~8.8	-	-	住宅地等 道路 商業地 駐車場	古都、海辺のまちなみを控えた鎌倉海岸の自然や景観を出来る限り保全し、多様な利用関係を調整し、「みんなで守り・楽しみ・伝えよう相模灘の豊かな自然と悠久な歴史・文化」の海岸を実現させる。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、景観史跡の保全と沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	自然砂浜海岸の保全・向上を図り、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。また、景観史跡の保全と沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマナー向上のための啓発を図る。海岸を散策し、楽しむためのユニバーサルデザイン化に配慮した整備に努める。漁業者との共存、自然環境の保全、保護に配慮した海岸の適切な利用に努める。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤及び消波工については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。また、砂浜が維持されることで、海岸での遊び、学習、利用が促進され、海の変護に連結される。
										消波工		456	不明	-	-							
										砂浜		-	-	-	-							
										突堤		315	2.1	-	-							

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（8）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
藤沢	④鎌倉	34	鎌倉(河)	鎌倉(七里ヶ浜)	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	2,600	自然海岸	津波侵食	護岸		2095	5.9~10.5	-	-	住宅地	古都、海辺のまちなみを控えた鎌倉海岸の自然や景観を出来る限り保全し、多様な利用関係を調整し、「みんなで守り・楽しみ・伝えよう相模灘の豊かな自然と悠久な歴史・文化」の海岸を実現させる。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	養浜により現状の砂浜を維持することを図る。また、伝達監視体制の充実や、避難のためのソフト対策を図る。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	砂草などの保全を図り、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。また、史跡の保全と沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマネー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜が維持されることで、海岸での遊び、学習、利用が促進され、海への愛護に連結される。
		35	腰越漁港	腰越	水産庁	鎌倉市	1,028	自然海岸人工海岸	津波	護岸		245	4.0~6.0	-	-	住宅地	小動岬など鎌倉海岸の自然や景観を出来る限り保全し、多様な利用関係を調整し、「みんなで守り・楽しみ・伝えよう相模灘の豊かな自然と悠久な歴史・文化」の海岸を実現させる。現況の砂浜を維持することを基本的な目標とする。一定の防護水準を確保するため、施設の整備を行う。	海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。また、景観の保全と沖合の藻場・磯場の保全、保護に努める。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマネー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤及び離岸堤については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。	
										離岸堤		204.4	3.8	-	-							
										砂浜		-	-	-	-							
									突堤		135.2	3.8	-	-								
	⑤藤沢・茅ヶ崎	36	湘南港(港)	藤沢	国土交通省港湾局	神奈川県	1,586	人工海岸自然海岸	津波	護岸		1295	5.0~不明	-	-	住宅地 駐車場	海岸災害から海岸を防護するとともに観光地である江の島の景観に相応しい海辺づくりの創出を図る。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	高潮や津波等による被害が想定される地域については、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。また、避難路を地域住民へ周知徹底を図る。	沖合いの藻場・磯場の保全、保護に努める。	良好な漁業環境の維持を図る。海岸沿いの散歩道の維持・補修を図る。海岸ゴミの持ち帰りの呼び掛けや秩序ある海岸利用の呼び掛けなど海岸利用者のマネー向上のための啓発を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	高潮や津波による越波、浸水対策の実施により、背後地の安全性が向上する。
37		片瀬漁港	片瀬	水産庁	藤沢市	142	人工海岸自然海岸	津波	防潮堤		142	6.5	-	-	住宅地 商用地	高潮、津波時の越波、浸水から背後地を防護するため、河川整備計画との整合を図りながら、総合的に対策を計画する。	伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸利用のマネー向上のための啓発を図る。背後の公園を配慮した整備に努め、安全で快適な利用を可能とする。	・防潮堤については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。	一定の防護水準が維持される。	
38		藤沢(河)	藤沢	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	5,239	自然海岸	津波侵食	護岸		1916	4.0~8.1	-	-	住宅地 商用地 道路 駐車場	現状の砂浜を保全することを基本として、養浜を主体とした海岸侵食対策に取り組む。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	海岸保全施設や養浜によって現状の砂浜を維持することを基本的な目標とする。また、伝達監視体制の充実や、避難のためのソフト対策を図る。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	砂浜海岸の保全を図り、広がる砂草帯の保護・育成をするなど海岸環境の増進を図る。また、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマネー向上のための啓発を図る。海岸を散策し、楽しむためのユニバーサルデザインに配慮した整備に努め、安全で快適な利用を可能とする。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜が維持されることで、海水浴場等の海岸での遊び、学習、利用が促進され、海への愛護に連結される。	

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（9）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果	
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面			
藤沢	⑤藤沢・茅ヶ崎	39	茅ヶ崎(河)	茅ヶ崎(中海岸)	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	4,793	自然海岸	津波侵食	護岸		589	5.8~6.5	-	-	住宅地 商用地 農用地 森林	代表的な白砂青松海岸の保全を図りながら、多様な海洋レクリエーションや漁業との利用調整を図る。海岸を侵食から防護するとともに、安全で快適な利用、環境にやさしい、茅ヶ崎らしく、海に向かってなだらかにひろがる海岸を目指した海岸とする。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	環境にやさしい砂浜海岸の保全・向上を図り、茅ヶ崎らしい景観を創出する。また、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用がなされるようマナー向上のための啓発を図る。海岸を散策し、楽しむためのユニバーサルデザインに配慮した整備に努め、安全で快適な利用を可能とする。自然環境の保全、保護に配慮し、適切な利用に努める。	護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜が回復されることで、海岸での遊び、学習、利用が促進され、海への愛護に連結される。		
			突堤		231(5基)	不明	-	-															
			砂浜		-	-	-	-															
	ヘッドランド		390	4	-	-																	
		40	茅ヶ崎漁港	中海岸南湖	水産庁	茅ヶ崎市	578	自然海岸人工海岸	津波	護岸		352.5m	5	-	-	住宅地	代表的な白砂青松海岸の保全を図りながら、地元漁業との利用調整を図る。	伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	漁港西側の堆積砂を、侵食が著しい中海岸に養浜材として搬入し、海岸の保全を図る。	甲種第一種漁港のため、地元漁業者の漁港として、利用を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	現状の砂浜を保持するとともに、波浪を減衰させ、背後の護岸、サイクリング道路の防護が図れる。	
	砂浜		-	-	-	-																	
		41	茅ヶ崎(河)	茅ヶ崎(柳島)	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	4,793	自然海岸	津波侵食	護岸		702	6.5	-	-	住宅地 商用地 農用地 森林	県下第一の相模川の河口部に位置し、豊かな海と川の地形と景観を呈しているが、近年、これらが急速に失われた。この失われた自然を出来るかぎり再生することを基本方針とする。また、より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観にも配慮する。高潮や津波等による被害が想定される地域においては、海洋景観等に配慮した施設整備について、検討を行い、一定の防護水準の確保を図る。	環境にやさしい砂浜海岸の保全・向上を図り、大石川の河口部らしい景観を創出する。また、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマナー向上のための啓発を図る。海岸を散策し、楽しむためのユニバーサルデザインに配慮した整備に努め、安全で快適な利用を可能とする。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波堤については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜が維持されることで、海岸での遊び、学習、利用が促進され、海への愛護に連結される。		
	砂浜		-	-	-	-																	
	消波堤		700	1.5	-	-																	
平塚	⑥平塚・大磯東部	42	平塚(河)	平塚	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	3,003	自然海岸	津波高潮侵食	離岸堤		350	1.5	-	-	住宅地 商用地 森林	比較的幅の広い豊富な砂量を誇り、豊かな緑の美しい平塚海岸の保全に努める。また、平成14年7月に開設された海水浴場とも連携して、相模灘のテーマである「みんなで守り、楽しみ・伝えよう相模灘の豊かな自然と悠久な歴史・文化」を目標に防護、環境、利用の調和の取れた総合的な海岸保全を図る。	砂浜海岸の保全を図り、広がる砂草帯の保護・育成をするなど海岸環境の増進を図る。また、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマナー向上のための啓発を図る。	・堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤及び離岸堤については、前面の洗掘や、ブロックの移動・散乱・沈下等について日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	養浜を実施することで、景観の維持と波浪の低減がはかれ、汀線を維持し、自然の消波機能により、海岸災害から海岸背後地等を防護できる。また、砂浜を維持することで、海水浴場等の海岸での遊び、学習、利用が促進され、海への愛護に連結される。		
											堤防		420	8	-							-	
											砂浜		-	-	-							-	
											突堤		263(2基)	2.5	-							-	

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（10）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果	
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面			
平塚	⑥平塚・大磯東部	43	大磯(河)	大磯	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	710	自然海岸	津波	堤防			785	8~8.5	-	-	住宅地 商用地 森林	比較的幅の広い砂浜を保全するとともに、周辺海岸の海岸線変動状況にも留意しつつ、広域的な視点により沿岸漂砂の連続性を考慮した総合的な対策を図る。防砂林や砂草を保全し、良好な海岸環境を形成する。	伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	砂浜海岸の保全を図り、砂草の保護・育成など海岸環境の増進を図る。また、海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	海岸ゴミの持ち帰りなど秩序ある海岸利用のマナー向上のための啓発を図る。	・堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。 ・陸間については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。	適切な砂浜の維持管理により海岸利用の向上が見込まれる。
										砂浜			-	-	-	-							
										陸間	1基	8.5	-	-									
	44	大磯港(港)	大磯	国土交通省港湾局	神奈川県	652	人工海岸 自然海岸	津波	堤防(防潮堤)				652	8.61	-	-	住宅地	海岸災害を防護するとともに、県下で有数の海水浴場として利用されていることから、海岸の保全を図る。	高潮・波浪、津波から背後地の住宅地の防護を図る。	砂浜海岸を保全し、堆砂状況をモニタリングし、良好な海岸の維持を図る。	海岸ゴミの持ち帰り等、海岸利用者のマナー向上を図る。	・堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。 ・陸間については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。	一定の防護水準が維持される。
									砂浜			-	-	-	-								
									陸間(防潮門扉)	11基	8.61	-	-										
45	大磯(河)	大磯	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県・国土交通省	3,927	自然海岸	高潮	岩盤型施設(仮称)	新設			-	-	砂礫流出防止に必要な延長	平常時露出しない高さ	住宅地等 森林	平成19年台風第9号により大きな海岸侵食が生じ、さらなる被災を発生させないよう最低限30m以上の幅と適度な勾配を持つ砂浜の回復を目標とする。台風第9号の被災区間は二宮海岸と連続した侵食対策を検討する。また、伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	大磯港西側は、平成19年台風第9号により大きな海岸侵食が生じたため、さらなる被災を発生させないよう最低限30m以上の幅と適度な勾配を持つ砂浜の回復を目標とする。養浜と海岸保全施設の併用により砂浜の回復を図る。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	海岸の打ち上げゴミ類の速やかな処理など海岸環境の向上を図る。	自然環境の保全、保護に配慮した良好な海岸利用を図る。	・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。 ・岩盤型施設(仮称)については、施設が露出した場合、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や定期的な点検・評価を行い、必要に応じて補修等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	養浜等によって従来の砂浜を回復させることで高波浪を減衰させ、越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上する。	
								砂浜			-	-	-	-									
46	⑦大磯西部・二宮	二宮(河)	二宮	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県・国土交通省	2,333	自然海岸	高潮 侵食	護岸			164.5	9.5	-	-	住宅地等 森林	平成19年台風第9号により大きな海岸侵食が生じ、さらなる被災を発生させないよう最低限30m以上の幅と適度な勾配を持つ砂浜の回復を目標とする。養浜と海岸保全施設の併用により砂浜の回復を図る。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	平成19年台風第9号により大きな海岸侵食が生じたため、さらなる被災を発生させないよう最低限30m以上の幅と適度な勾配を持つ砂浜の回復を目標とする。養浜と海岸保全施設の併用により砂浜の回復を図る。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	自然砂礫海岸を回復する。	今後も、海水浴場として機能するよう砂浜の回復を図る。投げ釣り、沿岸漁業、散策等の海岸利用に適切に配慮する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。 ・岩盤型施設(仮称)については、施設が露出した場合、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や定期的な点検・評価を行い、必要に応じて補修等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・洗掘防護施設については、施設の損傷・劣化等について、定期的な点検・評価を行い、必要に応じて補修等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	養浜等によって従来の砂浜を回復させることで高波浪を減衰させ、越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上する。さらに、この地域唯一の海水浴場の利用が可能となり漁業環境を増進させる。	
									突堤			100(2基)	3.5	-	-								
									岩盤型施設(仮称)	新設		-	-	砂礫流出防止に必要な延長	平常時露出しない高さ								
									洗掘防護施設	新設		-	-	洗掘防止に必要な延長	洗掘防止に必要な高さ								

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（11）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果		
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面				
小田原	⑧小田原東部	47	二宮漁港	梅沢	水産庁	二宮町	280	自然海岸	高潮 侵食	突堤			61	1.5	-	-	住宅地 森林	豊かな緑と美しい砂浜の保全を第一とし、長期的な視点で海岸侵食の防止を図る。また、快適で安全安心な生活環境の維持・増進を図り、砂浜の確保と漁業、散策等の利用にも配慮した海岸整備を行う。	現状の砂浜を保持し、砂浜の消波機能の確保を図る。	自然砂礫海岸の保全、河川等から流出・漂着した大型ゴミなどの迅速な対応により海岸環境の維持・向上を図る。	沿岸漁業、投げ釣り、散策等の海岸利用に適切に配慮する。	・突堤及び人エリーフについては、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	養浜等によって従来の砂浜を回復させることで高波浪を減衰させ、越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上する。さらに、この地域唯一の海水浴場の利用が可能となり漁業環境を増進させる。	
		48-1	小田原(河)	小田原(前川)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	1460	自然海岸	高潮 侵食	護岸			1460	9.03~ 10.70	検討中	検討中	住宅地等	モニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じて適切な管理を行っていく。また、美しい砂礫海岸と富士山、箱根山の景観を含めた良好な海岸環境の保護、投げ釣りや散策等の利用にも配慮した落ち着いた海岸整備を行う。	侵食に対しては、現状の砂浜を保持するとともに、砂浜全体の回復を図る。高潮に対しては、保全施設が設置されているが、一部消波機能不足により背後地の防護が不足している箇所もあるため、その軽減を図るとともに、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	自然砂礫海岸を保全し、海鳥の休息場となる海岸等を保全する。また、漂着した流木・ゴミなどに対しては速やかに対応する。	投げ釣り、沿岸漁業、散策等の海岸利用に適切に配慮する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・門扉については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜全体の維持を図ること、国土保全が図れる。また、砂浜等を維持することで高波浪を減衰させ、越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上するとともに海岸利用が促進される。	
		48-2	小田原(河)	小田原(国府津)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県 ・ 国土交通 省	1,470	自然海岸	高潮 侵食	護岸 改良	門扉 (角落し 含む)			1470	7.95~ 9.70	800	10.50	住宅地等	土砂供給の減少や急峻な海底谷への砂の流出により砂浜が侵食されているとともに、海底勾配が急で海底谷が近接しているため波浪条件が厳しく越波被害が発生している。そのため、背後地を防護するため養浜により消波機能を向上させ、併せて海岸保全施設の整備を行う。また、美しい砂礫海岸と富士山、箱根山の景観を含めた良好な海岸環境の保護、投げ釣りや散策等の利用や、かつての国府津海岸の漁業や海水浴場等活気ある海岸が回復されるような整備を行う。	侵食に対しては、環境や漁業に配慮し粒径を考慮した養浜を主体に砂浜の回復を図る。平成19年台風第9号により大量の砂礫が海底谷へ流出し、大規模な海岸侵食が生じた区間においては、急峻な海底谷が迫ることから、酒匂川からの供給土砂の流出を防ぐことにより砂浜の回復を図る。高潮に対しては、保全施設が設置されているが、消波機能不足により背後地の防護が不足し越波被害が集中している箇所もあるため、その防護を図るとともに、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	自然砂礫海岸を保全し、海鳥の休息場となる海岸等を保全する。また、漂着した流木・ゴミなどに対しては速やかに対応する。	投げ釣り、沿岸漁業、散策等の海岸利用に適切に配慮する。国府津海水浴場の復活。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・門扉については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。 ・沿岸漂砂礫流失抑制施設については、施設の移動・沈下等については、定期的な点検・評価を行い、必要に応じて補修等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	砂浜全体の回復を図ること、国土保全が図れる。また、砂浜等を回復することで高波浪を減衰させ、越波、飛沫の防止によって背後地の生活環境が向上するとともに海岸利用が促進される。
		48-3	小田原(河)	小田原(小八幡)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	2450	自然海岸	高潮 侵食	護岸	堤防			320	7.72~ 8.38	検討中	検討中	住宅地等	モニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じて適切な管理を行っていく。また、美しい砂浜海岸と富士山、箱根山の景観を含めた良好な海岸環境の保護、投げ釣りや散策等の利用や、かつて海岸で子供達が安全に遊んだ砂の豊富な砂浜海岸となるよう海岸整備を行う。	侵食に対しては、現状の砂浜を保持するとともに、砂浜全体の回復を図る。高潮・津波に対しては、西湘バイパスの存在により懸念は小さいが、一部消波機能不足により背後地の防護が不足している箇所もあるため、その軽減を図るとともに、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	自然砂礫海岸を保全し、海鳥の休息場となる海岸等を保全する。また、漂着した流木・ゴミなどに対しては速やかに対応する。	投げ釣り、散策等の海岸利用に適切に配慮する。小田原海岸において、砂の豊富な砂遊びが出来る海岸を目指す。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜全体の維持を図ること、国土保全が図れる。さらに、豊かな砂浜海岸とすることで、海浜植生の繁殖を促し、動物の生息地となり、さらに利用が促進される。
		48-4	小田原(河)	小田原(東町)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	926	自然海岸	高潮 侵食	護岸	堤防			100	9.51	検討中	検討中	住宅地等	モニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じて適切な管理を行っていく。また、美しい砂浜海岸と富士山、箱根山の景観を含めた良好な海岸環境の保護、投げ釣りや散策等の利用や、かつて海岸で子供達が安全に遊んだ砂の豊富な砂浜海岸となるよう海岸整備を行う。	侵食に対しては、現状の砂浜を保持するとともに、砂浜全体の回復を図る。高潮・津波に対しては、西湘バイパスの存在により懸念は小さいが、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	侵食に対しては、現状の砂浜を保持するとともに、砂浜全体の回復を図る。高潮・津波に対しては、西湘バイパスの存在により懸念は小さいが、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	投げ釣り、散策等の海岸利用に適切に配慮する。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜全体の維持を図ること、国土保全が図れる。さらに、豊かな砂浜海岸とすることで、海浜植生の繁殖を促し、動物の生息地となり、さらに利用が促進される。

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（12）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
小田原	⑧小田原東部	49	小田原漁港	東町	水産庁	神奈川県・小田原市	350	自然海岸	高潮 侵食	堤防		336	9.25	-	-	住宅地	長期的な視点で、砂浜の維持・復元による海岸保全機能の増大を図り、より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観にも配慮する。	海岸侵食を防止し、高潮から背後地を防護する。	水産協調型施設の導入による海域環境の向上を目指す。景観に配慮する。	漁業やレクリエーション利用に配慮する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・人工リーフについては、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜の回復、安定化 背後域への高潮災害の防止 水産協調型施設の導入による海域環境の向上
										砂浜		-	-	-	-							
										人工リーフ	新設	-	-	200	未定							
		50	小田原漁港	浜町	水産庁	神奈川県・小田原市	1,775	自然海岸	高潮 侵食	堤防		752	8.09~11.10	-	-	住宅地 商業地 工業地	モニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じて適切な管理を行っていく。より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観にも配慮する。	海岸侵食を防止し、高潮から背後地を防護する。	水産協調型施設の導入による海域環境の向上を目指す。景観に配慮する。	漁業やレクリエーション利用に配慮する。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤、人工リーフ及び潜堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	養浜による砂浜の回復、安定化 背後域への高潮災害の防止
										護岸		125	10.24	-	-							
										砂浜		-	-	-	-							
										突堤		105(1基)	-1.5~5.5	-	-							
										人工リーフ		754(4基)	-1.5	-	-							
										砂止潜堤		125(3基)	-4	-	-							
		潜堤		70.7	-4	-	-															
		51	小田原漁港	本町	水産庁	神奈川県・小田原市	1,775	自然海岸	高潮 侵食	堤防		431	9.4~11.44	-	-	住宅地 商業地 工業地	モニタリングを行いながら砂浜を維持管理し、必要に応じて適切な管理を行っていく。より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観にも配慮する。	海岸侵食を防止し、高潮から背後地を防護する。	水産協調型施設の導入による海域環境の向上を目指す。景観に配慮する。	漁業やレクリエーション利用に配慮する。	・護岸及び堤防については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤、人工リーフ及び潜堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	養浜による砂浜の回復、安定化 背後域への高潮災害の防止
										護岸		255	5.00~11.47	-	-							
砂浜										-	-	-	-									
突堤										178(2基)	2.5~3.0	-	-									
人工リーフ										619.2(3箇所)	-1.5~-2.0	-	-									
砂止潜堤										90.95(2箇所)	-4	-	-									
潜堤		120.8	-2.0	-	-																	
52	小田原漁港	南町	水産庁	神奈川県	380	自然海岸	高潮 侵食	護岸		438	8.24~11.58	-	-	住宅地	長期的な視点で、砂浜の維持・復元による海岸保全機能の増大を図り、より良い海岸環境を創造するとともに海岸利用を促進し、景観にも配慮する。	海岸侵食を防止し、高潮から背後地を防護する。	水産協調型施設の導入による海域環境の向上を目指す。景観に配慮する。	漁業やレクリエーション利用に配慮する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・人工リーフについては、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	砂浜の回復、安定化 背後域への高潮災害の防止 水産協調型施設の導入による海域環境の向上		
								砂浜		-	-	-	-									
								人工リーフ	新設	-	-	200	未定									

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（13）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
小田原	⑧小田原東部	53	小田原漁港	早川	水産庁	神奈川県	1,395	自然海岸	高潮 侵食	護岸		1022	7.00~13.20	-	-	住宅地	高潮等の越波から背後地を防護するため、長期的に対策を計画する。貴重な砂浜の保全を図る。都市型漁業の振興として都市との交流拠点の形成など海の総合的利用を図る。	一定の防護水準を維持するために、施設の異常箇所の早期発見のための点検を継続的に行う。また、長期的には沖合いに海域環境に配慮した潜堤を設置し越波防止を図る。	藻場や水質等の自然環境へ配慮した施設整備と、人と自然が共生できる沿岸環境を創造する。	漁業事業による自然環境を生かしたふれあい緑地広場整備や親水施設整備・駐車場等の受け入れ施設整備と一体的利用により都市住民との交流拠点としての利用促進を図り、良好な漁業環境を創造する。ゴミ持ち帰り等啓発をはかり利用環境の向上を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・離岸堤及び潜堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	背後地への高潮災害の防止 砂浜の回復・安定化 水産協調型施設の導入による 海域環境の向上
										砂浜		-	-	-	-							
										離岸堤		110 (2箇所)	3	-	-							
潜堤	新設	-	-	200	未定																	
小田原	⑨小田原西部	54	小田原(河)	根府川	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	512	自然海岸	津波	護岸		277	8.44~12.0	-	-	キャンプ 場他	典型的な岩石海岸と大玉石海岸で、漁業、磯釣り、ダイビング、キャンプ等の利用が盛んで、こうした自然豊かで、様々な利用がされている海岸の利用と環境との調和を図りつつ、安全で快適に活用できる海岸整備を行う。	高潮・侵食に対しては、高波浪を減衰させ、背後地への浸水を防止する。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	大玉石海岸を出来る限り残し、また、背後の小田原市指定保存樹(クロマツ他)を保護・保全して、白砂青松海岸とする。	漁業、磯釣り、ダイビング、キャンプ等のそれぞれの良好な利用が出来るような海岸整備を行う。また、海岸利用のユニバーサルデザイン化を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工及び人工リーフについては、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	白砂青松海岸を守り、地域や観光者の安全で快適な海洋レクリエーション基地を保全・保護することで、海岸利用の促進が図れる。また、海岸に接した貴重な平地を海岸侵食から防護することで国土保全の目的を達成することが出来る。
										護岸	新設	-	-	検討中	検討中							
										消波工		150	不明	-	-							
										人工リーフ	改良	200	-1.8	検討中	検討中							
小田原	⑩真鶴・湯河原	55-1	白磯海岸	白磯海岸(現在、海岸保全区域の指定は無い)	国土交通省 水管理・ 国土保全局	神奈川県	(未指定)	自然海岸(崖海岸)	侵食	消波堤	新設	-	-	検討中	検討中	崖(上部は住宅地)	磯と斜面緑地からなる自然海岸で、磯釣り、磯遊びや豊かな動植物の宝庫と言われ、野外学習の場ともなっている。こうした自然を保護しつつ、海岸に接する崖の侵食を防止し、国土保全を行い、併せて、海岸の安全利用が促進されるような海岸整備を行う。	現在の豊かな海岸環境を維持するとともに、さらに向上が望めるような海岸環境の整備に努める。	漁業や安全で快適な磯釣り、磯遊び等の海洋レクリエーションが行えるよう自然環境の保全と利用を図る。	・消波堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じて、ブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を確保する。	海食崖基部の侵食を防止することで、崖及び崖上住宅地の安全性の向上が図れると共に、海岸の利用環境を増進することが出来る。	
										護岸	改良	850	5.60~6.50	検討中	検討中							
小田原	⑩真鶴・湯河原	55-2	真鶴港(港)	真鶴	国土交通省 港湾局	神奈川県	850	自然海岸 人工海岸	高潮	離岸堤		70	3.00	-	-	住宅地 商業地 漁業港湾 関連施設	岩礁海岸と大玉石海岸で、漁業、磯釣り、磯遊び等の利用が盛んで、こうした自然豊かで、様々な利用がされている海岸の利用と環境との調和を図りつつ、安全で快適に活用できるような一定の防護水準を確保しながら海岸整備を行う。	高潮に対しては、既存の海岸保全施設を適切に管理していく。津波に対しては港湾利用と整合を図りながら、背後地への浸水被害が発生しないよう、既存の海岸保全施設の改良等により機能向上を図る。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	施設の維持、改良にあたっては、景観に配慮すると共に親水性を高める。	利用促進を考慮し、海浜への近づき易さや緊急時の避難のし易さに配慮する。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・離岸堤及び人工磯については、ブロック(被覆石)の移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。	背後地の津波災害を防ぐと共に、自然環境の保全と利用の安全性及び促進が図れる。
										人工磯		750	1.72	-	-							

表3-3-2 海岸保全施設の整備（新設又は改良及び維持又は修繕）に関する事項一覧表（14）

ブロック区分	ゾーン区分	No.	海岸名	地区名	所管	管理者	要保全海岸線延長(m)	海岸のタイプ	対策の種類	施設	新設・改良	規模(現況)		規模(計画)		背後地の状況	整備の方針	海岸の目標			維持又は修繕の方法	期待される効果
												延長(m)	天端高(T.P.m)	延長(m)	天端高(T.P.m)			防護面	環境面	利用面		
小田原	⑩真鶴・湯河原	56-1	湯河原(河)	湯河原(吉浜地区)	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	1,022	自然海岸	津波侵食	護岸		740	6.50	-	-	湯河原町の貴重な砂浜海岸であり、古くから海水浴場として賑わいを見せてきた。湯河原温泉を訪れた人が、気軽に利用できる海岸として、また、みんなの財産として砂浜を今後も保全をしていく。海水浴場としてさらなる賑わいと防災機能の一層の向上を目指した海岸整備を行う。現状の砂浜を保持する。	現状の砂浜を保持し、砂浜の消波機能を高める。また、高潮、津波対策に対しては情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処するとともに、避難通路等の機能向上を図る。	砂浜の長期的な安定による海生動植物の生息環境の向上を図る。また、海岸への排水による海岸環境の悪化防止を図る。	海水浴場、投げ釣り、サーフィン等の海洋レクリエーションが行えるよう海岸の利用の増進を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・突堤については、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・門扉については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。 ・砂浜については、日常的な巡視や、高波浪後に、汀線や護岸前面等の状況を点検し、必要に応じて養浜などにより適切な維持に努める。	現状の砂浜を保持・回復することで、高潮災害を防止・軽減すると共に、道路護岸の安全性の向上が図れる。また、海水浴場としての賑わいを回復させ、湯河原町の町おこしにも寄与できる。	
										突堤		43(1基)	2.45	-	-							
										門扉(角落し含む)		13	6.50	-	-							
										砂浜		-	-	-	-							
	56-2	湯河原(河)	湯河原(門川地区)	国土交通省水管理・国土保全局	神奈川県	932	人工海岸(埋立地)	高潮	護岸	改良	932	6.50	検討中	検討中	埋立人工海岸であり、波浪の影響を直接受ける厳しい海岸であるため、背後地を防護する海岸保全施設を適切に管理していく。また、海水と間近に接することができる海の学習の場として、親水性の向上を図り、併せて、海岸愛護が促進されるような海岸整備を行う。	高潮に対しては、既存の海岸保全施設を適切に管理していく。津波に対しては、海岸利用と整合を図りながら、背後地への浸水被害が発生しないよう、既存の海岸保線施設の改良等により機能向上を図る。また、情報の伝達監視体制、避難場所等のソフト対策で対処する。	施設の維持、改良にあたっては、景観に配慮するとともに親水性を高める。	子供から大人まで幅広く海と親しむ事ができる空間とする。また、利用促進を考慮し、当該海岸と隣接海岸を連続させ、利便性の向上を図る。	・護岸については、施設の損傷・劣化等の変状について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、変状の進行に応じた長寿命化を図るなど、施設の機能が維持されるよう、適切な維持・修繕に努める。 ・消波工及び人エリーフについては、ブロックの移動・散乱・沈下等について、日常的な巡視や原則として5年に1回程度の定期的な点検・評価を行い、必要に応じてブロックの補充等による適切な維持・修繕に努め、施設の機能を維持する。 ・門扉については、日常的な巡視、台風期前などにおける開閉点検及び原則として5年に1回程度の定期的な点検を行い、施設の機能が維持されるよう適切な維持・修繕に努める。	背後の公共施設等の安全性と分断された景観と利用の調和が図れ、湯河原海岸全体としての出来る限りの自然性を復元できる。		
									消波工		600	不明	-	-								
									人エリーフ		510	-0.84~-1.84	-	-								
									門扉(角落し含む)		1	6.50	-	-								